

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	佐賀市立金立小学校	
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上について、本校児童の学力の課題を分析し、目標とする児童の姿を具体的に描き、そのための手立てを考え、校内研究を中心に取り組んでいく。 ・「学校が楽しくない」と感じている児童に対して、個別に支援すると同時に、全ての児童にとって学校・学級が居心地のよい場所となるように、環境や授業のUD化、学級づくりを推進する。 ・年次休暇を取りやすくするために、放課後や長期休業中の行事を精選する。 	
2 学校教育目標	志高く 心豊かに 学ぶ 金立	
3 本年度の重点目標	①目指す子ども像(かしこい子・やさしい子・たくましい子・ふるさとを愛する子)の確かな実現 ②特別支援教育の充実 ③働きやすい職場環境づくり ④地域・保護者に開かれた学校づくり	

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者		
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価				
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果		評価	意見や提言
●学力の向上	①「授業づくりのステップ1・2・3」を活用した指導の徹底 ②「学習の約束」の遵守を職員も児童も徹底していく ③「児童が自分の考えを伝えること」ができるように、授業の仕組みや手立てを考え実行していく	①職員の90%以上、加重平均3.3以上の肯定的回答を目指す。 ②児童の94%以上、加重平均3.5以上の肯定的回答を目指す。 ③児童アンケートで「自分の考えを伝えること」に肯定的に回答した児童の割合が90%以上、加重平均3.3以上。	①「授業づくりのステップ1・2・3」の「めあて」の項目をステップ3まで高めることができる。 ②「支持的な学級風土づくり」のために、児童アンケートで「学習の約束を守って学習することができる」の項目を高い数値で維持する。 ③二人でタイムなど、「話し合う」時間を意図的に仕組むことで児童自身が実感を持って考えを伝えることができるように工夫する。							【確かな学び部】 ・学力向上対策 ・研究主任
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校生活アンケートの道徳に関する項目において、肯定的な回答をした児童の割合が90%以上。 ○児童アンケートで「人権集会などを通して人権について深く考えることができた」に肯定的に回答した児童の割合が90%以上。	・道徳科の授業づくりに関する校内研修を実施 ・授業参観で「ふれあい道徳」を行い、保護者への啓発を図る。 ・毎月第3水曜日に人権集会または、人権教室を行い、児童の人権意識の高揚を図る。							・道徳教育推進教員 ・人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○教職員アンケートで「いじめの未然防止及び早期発見・早期解決のための組織的・継続的な対応ができている」に肯定的に回答した教職員の割合が95%以上。 ○児童アンケートで「学校が楽しい」と回答した児童の割合が85%以上。	・毎月子ども支援会で、気になる児童や問題行動を確認すると共に、学級グループを中心に複数の教員で児童に関わる。いじめにつながる言動の早期発見・早期対応に努める。 ・毎月「いじめ」のちを考えた日に「生活と心のアンケート」を実施し、気になる児童について情報を把握して面談等を行い、解決を図る。 ・人権教室や道徳の授業を通して、いじめをしない、いじめを許さない児童を育てると共に、支持的風土のある学級づくりをする。							【豊かな心部】 ・生徒指導 ・教育相談
●心の教育	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていてと思う」と回答した児童生徒95%以上。 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上。	・中学校区の共通取組「出番・役割・承認」を全教職員で具現化する。 ・キャリアパスポートを活用し、児童一人一人の個人目標の自己決定に向けた指導の充実を図る。また、その目標達成に向けた取組や活動の振り返りを記録し、自己の改善を意識させるなど、キャリア教育の充実を図る。							・教務主任 ・特別活動
	●不登校解消と未然防止の取り組み	○不登校児童や不登校傾向の児童の登校日数を前年度より増やしている。	・SC、SSWや関係機関との連携を強化していく。また、ケース会議等で組織的な対応ができるようにする。 ・SC、SSW等へ依頼して不登校対策の研修会を実施し、教職員の対応力を高めている。							【豊かな心部】
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒75%以上。 ②給食後の備前が100% ③「健康に良い食事をしている」児童生徒85%以上。 ④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	・「さわやかタイム(縦割り活動)」を実施し、戸外での運動を推奨する。 ・「保健タイム」を実施し、養護教諭作成のスライド教材を活用した担任による保健指導を行う。 ・給食についてアンケートを実施する。 ・養護教諭や栄養職員、歯科校長等と連携して、健康や食育に関する指導を行う。 ・警察の方や指導員の方を招いて交通安全教室を実施し、保護者に児童からの交通安全に関するお便りを配布することで、交通安全に対する正しい行動の仕方を身につけるようにする。							【すこやかな育ち部】 ・体育主任 ・健康教育、保健指導 ・食育、給食指導 ・学校栄養職員 ・安全教育
	各家庭に配布した「金立スタンダード」に基づき、本校児童の健康・安全を支える望ましい生活習慣について具体的なルールやマナーを示し児童と共に保護者へも啓発を行う。	①欠席・遅刻・早退・見学などの重要な連絡事項の確認漏れゼロを目指す。 ②服装や持ち物に関するきまりについて、児童や保護者への周知徹底を図る。 ③児童の自覚の健康管理・病気の予防についての知識理解を深める。	①本校児童の全世帯に学校出欠連絡アプリの登録を推奨し全校一括で利用する。 ②「金立小のよい子のきまり」と共に、服装についてのプリントを配布する。 ③春のタイムズに際して保健タイムを行い、児童への啓発を行う。							【すこやかな育ち部】
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上。	・連絡会時には、自身の時間外在校等時間を確認する時間を設定し、上限45時間の遵守に対する意識の向上を図る。 ・夏季休業中に年次休暇を取得しやすいように、行事計画を工夫する。							・校長 ・教頭
	○勤務規律の保持と働きやすい職場環境づくり	○教職員アンケートにおいて「学校の内外を問わず危機管理意識をもって行動できている」に肯定的に回答した教職員が100%。 ○年間を通して、教職員の信用失墜行為ゼロ。	・毎月10日を「不祥事機能ゼロの日」の取組の日とし、不祥事予防のための個人チェックをすることにより、職員の危機管理意識を高める。 ・「風通しのよい職員室」にするために、勤務時間内に授業や児童についての情報や悩みを共有する時間を確保するために、放課後の行事を精選する。							・校長 ・教頭
●特別支援教育の充実	○個々の児童の「困り感」に寄り添った教育の実現	○教職員アンケートにおいて、「特別支援教育に関する専門性が向上した」について肯定的に回答した教職員の割合が85%以上。 「特別支援的な配慮を心掛けている」について肯定的に回答した教職員の割合が90%以上。	・年間3回以上研修会を行い、教員の専門的知識を深める。 ・子ども支援会や気になる児童の事例研究などを通して児童理解に努め、個々の「困り感」に寄り添った指導・支援を行う。							・特別支援教育(特別支援CO)

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果		評価	意見や提言
○地域連携教育	○ふるさとを愛する児童の育成と地域・保護者に開かれた学校づくり	○児童アンケートで「ふるさと」金立に愛着をもち大切にしようと思う」に肯定的に回答した児童の割合が95%以上 ○保護者アンケートで「学校と地域が連携しながら取り組んでいるか」について肯定的に回答した割合が95%以上 ○平均、月に3回以上の学校HPのお知らせ、学校HPのイベントギャラリー等の更新を行う。 ○年間を通して、15号以上の学校便りを発行する。	・金立町の教育資源や人材等を活用した「金立編みかたの大会」や「金立探検隊」などを通して、児童がこれまで以上にふるさと「金立」のことを知り、愛着をもつことができるようにする。 ・「千の花の会」との植樹(3年生)や「美化美化大作戦」への児童の参加などを通して、地域とつながる取組の充実を図る。 ・これまでの連携実績を踏まえ、今後の金立小学校地域連携モデルを構築する。							
○幼保小連携教育	○幼児小連携協議会による金泉校区の教育推進	○幼児小連携協議会や幼児学園教育研究会において、職員との交流や連携を図る(連絡協議会2回、合同研修会3回の実施)	・全立幼稚園、千高幼稚園との幼保小連携協議会では、学校職員も積極的に参加を促している。 ・金泉中、久保東小の教職員との相互フォローを計画的に実施し、幼小連携、小中連携を推進する。 ・教職員の3校合同会議・合同研修会を行い、幼児学園教育の取組の推進を図る。 ・「出番・役割・承認」の取組の徹底を図る。							・1年担任 ・教務主任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--